

# 江東区 公園縮小で住民反発

## 区民「道路拡幅在りきでは」

都内最大規模の親水公園・仙台堀川公園の面積を縮小させる江東区の整備計画案に対し、一部住民が反発している。隣接道路の拡幅を盛り込んだことが要因で、区は無電柱化とともに、緊急車両がすれ違える幅員を確保したい考えだが、住民らは多様な生物が生息する環境が損なわれるとして、再検討を求めている。また、計画の進め方自体を問題視する声もあり、土壌汚染対策も重なって、工期の遅れを余儀なくされている。



河川水を利用した水路がある仙台堀川公園  
＝1日、江東区で

同公園は全長3.7キロ、面積10.4秒で、1980年に開園した都内有数緑豊かな環境を求めて区

の東端を流れる荒川に生息する鳥も飛来。絶滅危惧種の指定を受けるタカ科のツミも営巣しているという。

ただ、開園から40年近くが経過しており、園路や遊具などの施設の老朽化が目立ち、区は改修に乗り出した。公園内には、自転車専用路がなく、歩行者と接触の恐れがあるとともに、公園の両側に接する区道の幅員が狭い課題も重なり、区は13年度に北側約1.1キロに限り、道路と公園、河川の一体整備による改修の調査・設計に着手した。だが、昨年4月の住民説明会で示した計画図に

一部住民が反発。片側約6.5メートルの隣接道路の幅員を4メートルに狭くするに伴い、公園をセットバックするとともに、現在の河川水による水路を暗渠にし、新たに真水の水路を設ける案だったからだ。

区は交通安全の確保や水辺に近付けるような水路にしたい考えだが、生物多様性に富んだ環境が損なわれると懸念した一部住民は、計画の中止や見直しなどを区に要望。反対する環境団体の中心的な役割を担う、樹木医で有エル・エス研究室の美濃又哲男代表取締役は、「設計書を見たが、道路拡幅在りきの印象を受けた」と不信感を募らせる。

区の事業の進め方への批判の声もある。区が15年2月に固めた基本計画案は、地元の町会・自治会に説明会は開いたものの、公表しないまま詳細

設計に移行。昨年4月の説明会で初めて計画案を知った美濃又氏は、「いきなり計画が出てきた。進め方にも問題がある」と指摘する。一方、山崎孝明区長は先月31日の会見で、「改修するのに前より悪くするはずがない。住民の方に十分伝わっていない」との認識を示した。

区は住民の意向を受け、計画の修正案を作成したが、その際に新たに環境基準を上回る土壌汚染が判明。土壌調査する必要に迫られた。工期は1年後ろ倒しとなり、公園整備の竣工は2022年度にずれ込む。

区は今後、今年3月にまとめた修正案をベースに、住民との意見交換会を実施する方針。美濃又氏は「台意できるか心配。『ガス抜き』の場に使われるのではないかと懸念する。区は水や緑の在り方や施設整備など、分野ごとに住民と課題を整理した上で、意見交換会に臨みたい考えで、今年度末に改めて計画の修正案を示す。

# 大切にしたいこと

## ○ 30年培ってきた区や地域の「財産」を継承したい。

木々が大きくなり、やっと当初計画の「区民の森」になりました。生きものも豊かになり、珍しい鳥やカルガモの子育ても見られます。散策、癒い、釣り、自然、おしゃべり…いろいろ楽しめる場所です。地域の風景となり、親子、お孫さんが共有できる場所になっています。施設などの改修も必要ですが、一度失うと取り戻せない環境もあります。

子ども達が育った樹名板とともに大きく育った樹木。豊かな緑が育まれ、多くの鳥の姿も見られるようになりました。現在の公園は30年を経て育られた区や地域の財産です。



## ○ 貴重な機会です。新しい創造も検討したい。

まちづくりに参加するいい機会。私たちのふるさとです。高齢化時代への備えなど、通行の安全はとても大切です。清洲橋通りの立体交差など、公園がなくなったら素敵です。電線が無くなるのも、隣の公園との連携も楽しみです。ガーデニングやドックラン、いろいろな利用を考えたい。



ドックランを設けたら、現在路上に設けられているマラソンコースの公園内への設置、護岸の活用など、安全、安心、周囲との連携、景観のつながりなど、公園のさらなる活用が可能です。



## ○ 整備後もみんなで大切に育てていきたい。

公園を安全・快適にするには、継続したかがりが欠かせません。緑や生きものを育てるには、多くの区民の方々の知恵と協力も大切です。公園について考える機会を設け、より快適で楽しい公園にできます。



現在の仙台堀川公園の林床(木々の根元、地面)は当初さまざまな植物がありましたが、なくなりました。古石堀川樋水公園の水路はかつてアサリが生息しましたが資源により見られなくなりました。整備後の管理が大切で、ホタルが飛び交う公園も可能です。



## 仙台堀川公園は、ふるさとの原風景になっています。ぜひ、皆さんの声を

仙台堀川の歴史は、古くは江戸時代に遡り、この一部の砂町遊河は民間の手で作られた数少ない遊河です。遊河は1980年に公園となってからも区内を縦横につなぐ「区民の森」として

区の代表的な公園になりました。今回の整備が公園の木々や面積を減らさず、公園の価値を高め、将来の魅力的な運営や管理につながることを心より願っています。

公園のここはこうで、あそこはこうなど、あなたのご意見を区のご担当に7月15日までにお伝えください。

# 問題と感じていること

## ○ 公園には、さまざまな方々の多様な利用があります。

公園では、早朝の散歩、ジョギング、愛犬との散歩をはじめ、近隣の保育園、幼稚園、小学校でも利用し、付近の高齢者施設や遠方からのウォーク、鳥の鑑賞に訪れる方も多くなります。公園は、花見だけでなく、ちょっとした空間が数多く点在し、レジャーシートを広げたピクニック的な利用も四季を通して多く見られます。広場は、午前中にゲートボール、休日や学校が終わった後は、自転車をネット代わりとした

テニスやキャッチボール、壁当て、鬼ごっこ、ダンスの練習など、多様に利用されています。八ツ橋の池では、魚釣りやエビ、小魚を捕まえる姿があり、水路ではカルガモの親子を眺めて和む人や釣りを楽しむ人がいます。しかし、今回の整備で多くの木々が伐採され、ちょっとしたゆとりがある空間や十分な木陰、自由な広場、生きものいる水辺がなくなると、これまでのような多様な利用はできません。

## ○ 大きく育った多様な樹木が豊かな環境をつくっています。

「区民の森」として様々な検討の上、植えられた多様な樹木が30年を経て、現在の豊かな森になりました。しかし、計画ではツケラも含めて相当数の樹木を伐採し、東京都のレッドデータリストで「絶滅危惧Ⅰ類」の鷹「ツミ」が公園内でヒナを育てている木も伐採します。整備区域は、仙台堀川公園内で最も野鳥の生息に適した環境の1つになっており、区や地域だけでなく、都内でも貴重な森になっています。

大きく育った木々の枝が重なり合うことで、鳥や虫はひとつながりの線として、公園内を移動することができます。しかし、線の一つながりが断たれ、「森」が「木」になると、生息空間は極端に小さくなります。近年の剪定でも、オナガの減少に影響が出ており、今回の大規模な整備による致命的な影響が危惧されます。また、大きく育った樹木は対面する住居間の視線を和らげており、生活への影響も発生します。



ちょっとした空間が利用の幅を広げます



愛犬の散歩でコミュニケーションの場にも



絶滅危惧種ツミが羽が公園内で育っています



工夫して利用できるから楽しい(テニス)



自然観察の場としても利用しています



カルガモの子育ても見ることができます

# 「仙堀」整備計画について

- No 001 -  
2016年(平成28年)  
7月7日発行  
E-mail:senbori@teamkoto.net  
FAX:03-5635-9956

仙台堀川公園近隣住民有志、生物多様性チーム江東、NPO法人ネイチャリーダ―江東、NPO法人マザーツリー自然学校、こうとうピオネットワーク、NPO法人Green Works

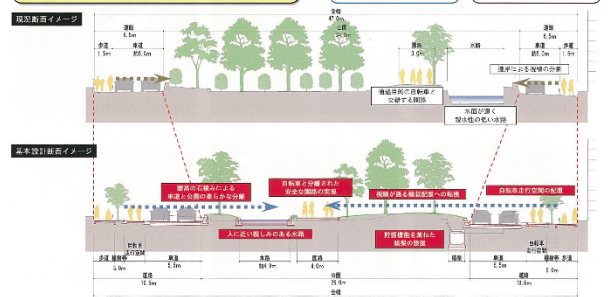
## 一緒に考えて頂けませんか！

現在、総事業費40億円、工期5年、平成29年着工で計画が進められている「仙台堀川公園整備計画」について、「整備して良かった」と思える整備であって欲しいと願ひ、このお知らせをつくりました。このチラシのPDFや関連資料は、検索「チーム江東」(http://teamkoto.net)で、閲覧、ダウンロードできます。また、整備計画を知らない方も多くいらっしゃいますので、ご友人やお知り合いの方々にご紹介いただくと幸いです。せっかく、時間とお金を掛けて整備をするのですから、江東区と一緒に良い知恵を出し合い、より良い環境づくりの機会にしていけたらいいと思っています。

江東区の「仙台堀川公園整備計画」は、公園に設置されている掲示板やホームページをご覧ください。江東区の担当部署は下記の2部署で、問い合わせや意見、要望の受付期間は7月15日です。  
【公園・水路に関すること】 江東区土木部河川公園課工事係 TEL03-3647-2089  
【道路に関すること】 江東区土木部道路課調整担当 TEL03-3647-9374  
ぜひ、皆さんの仙台堀川公園への思いをお伝えください。

## 江東区の「仙台堀川公園整備計画のお知らせ」抜粋

江東区の「仙台堀川公園整備計画のお知らせ」は、キーワード検索「仙台堀川整備計画」をご覧ください。  
https://www.city.koto.jp/sekatsu/douro/koujikaasan/kaseikeiji.html  
お問い合わせについて  
本計画の進捗や利用・参加方法は随時更新してまいります。  
なお、ご要望・ご意見につきましては、今後の設計段階で検討するため平成28年7月15日を目途に受付をさせていただきます。  
ご質問とご意見は下記までお問い合わせください。



## ○ 道路と歩行者・自転車の課題を合理的に解決できます。

今回整備対象の道路は、区内では決して狭い道路ではありません。小名木川兩岸は一方通行です。また、都道の丸八通り、亀戸葛西橋と平行し、住宅街の中にあり、東西に貫通していない道路です。すでに豊かな緑があり、人々が憩う公園を削り、狭いとされる道路に植樹帯を新設する計画は合理性に欠けます。8mも道路を削り、8mも公園を削る必要があるでしょうか。「自転車が増加による歩行者への危険」は理解できます。南砂緑道公園、大島緑道公園、同じ仙台堀川公園の他の場所では、歩行者、自転

車のレーン区分による通行で応じています。歩行者と自転車の課題を現在の幅員で解決できれば、公園面積を減少させずに済みます。また、大きく育った樹木や歴史的落ち葉の散乱防止にも役立っている仙台堀川の護岸を継承することができ、事業費も削減できます。清洲橋通りとの交差点は、仙台堀川公園の他の場所と同じように道路下に通路を設けて公園の一体化を図ることが可能です。公園の長さを活かしたジョギングコースとしての利用をはじめ、安全で快適な公園の魅力が高まります。

## ○ 多様な水辺の価値を継承した水路整備が必要です。

既存公園には水路と池があり、夏季には、シャワーもあるワンダフル水路で水遊びができます。護岸を活かした現在の水路は、大横川からサイフォンで取水し、幅や深さがあることでハゼやボラの幼魚などの魚が生息しており、子育てをするカルガモも見ることが出来ます。真水の八ツ橋の池は、フナやエビなどが繁殖し、釣り人や子ども達だけでなく、これらを捕食するサギやカワセミの姿も見られます。

計画では、「水路を暗渠化(地中化)し、ポンプによる汲上で最大水深30cmの水路を整備」「歴史的な遊河のイメージを彫形的な水路で具現化」としていますが、ポンプで生きものの流入は望まず、浅い水路では現存する生きものも多く生息できません。現在の公園で実現している子どもたちの遊びや生きものの棲み家など、多様な水辺の価値を継承した水路、水辺整備が求められます。



ゾーン分けをした通路(南砂緑道公園)



八ツ橋の池「ザリガニ池」もなくなりず



ポンプで生きものいらない水路(仙公堀公園)



ゾーン分けをした通路(仙台堀川公園)



豊かな水辺の1つになっている現在の水路



水深30cm基準の水路(野川河川敷公園)

No.02  
2016.10.7

# 「仙堀」整備計画について

「仙台堀川公園を考える会」江東区北部 6-27-14 E-mail: info@senbori.com

来春着手予定の「仙台堀川公園整備計画」への区の意見募集7/45締切を前号でお知らせしました。今回はその続きです。

私たちは、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)に江東区と参加した生物多様性チーム江東をはじめ、ネイチャーリーダー、エコリーダー、江東区CIGサポーター会議など、これまで、そして現在も江東区の事業に関わり、より良い江東区を目指してご尽力・ご協力をいただいております。しかし、今回の整備計画はさまざまな面で課題が多いため、その改善を求めます。ぜひ、ご意見をください。

仙台堀川公園関係住民有志、生物多様性チーム江東、NPO法人ネイチャーリーダー江東、NPO法人アーツリー-自然学校、こうとうエコネットワーク、NPO法人Green Works

多くの方が要望したようですが、まだ、区の見直しの内容や問題点を知らない方も多く、その後の区の見直しも、仙台堀川をなくし、公園を削り道路にするのはそのままでのようです。快適で安全な道路などの改善は日常管理の範囲で出来ることで、現状の調査も不十分な計画では公園が台無しです。いろいろな意見があると思いますが、この貴重な公園を将来に残し、より良くしていくとすることを署名にご協力ください。

「計画見直し」の署名ははじめました

◆子どもたちが自然に親しめなくなります。  
30年以上をかけて豊かになった環境…区で唯一絶滅危惧種のタカ「ツミ」が営巣していたマツも伐採されます。計画では地域にここだけにしかない子どもたちが親しみ、学習の場にもなっている生きものいる環境がなくなります。

◆歩行者と自転車の安全は他の方法でも解決できます。  
歩行者と自転車の安全確保が計画の課題になっていますが、これは仙台堀川公園の他の場所と同じ方法でも解決できます。逆に旧護岸がなくなり、スピードが出やすくなった拡幅道路が公園のすぐ脇となり危険です。

◆40億円はもっと活用できます。  
事業費は40億円です。計画の課題は、通常の維持管理の中でも解決でき、事業費はマラソコースやホテルの複合施設にするなど、もっと有効な活用が考えられます。

◆木が切られ、緑陰や視線の緩和もなくなります。  
30年以上にわたって維持管理され、太木となった多くの木が伐採されます。新たに植えた木では日陰や向かい合う住宅など生活上の視線緩和が確保できません。本来は改修計画で、健全な既存樹木は残すのが普通です。

◆公園は幅8m狭く、公園は約1haも小さくなり、憩いや散歩がしにくくなります。  
道路拡張で公園幅は8m減少。園路も1m広くなり、延長1.1kmの対象地域で9,900㎡の憩える空間がなくなります。園路の拡大はわかりませんが、道路拡張の必然性はありません。

◆仙台堀川がなくなり、歴史遺産を失い、魚もカモもなくなります。  
仙台堀川は埋められ(暗渠化)、深さ30cmの水路になります。ただ水が流れ、浅く入れただけが親水性ではなく、歴史遺産であり、生きものが棲む生命感がある流れこそ「仙堀」の魅力です。

◆見直しを求めるおもな理由  
現在一部で水辺に親しめる環境はなくなり、橋を架けるだけで改善できません。

◆見直しを求めるおもな理由  
仙台堀川公園に地下道による連続性が確保され、歩行者の安全確保も確保できると、改修工事に対応しづらい方がありません。

◆木が切られ、緑陰や視線の緩和もなくなります。  
経年する木ですが、ここに植える木はすべて伐採されます。すくなくとも、4m以上の木は残す必要があり、計画で道路に隣接する木は、健康な木を残すのが普通です。

ホームページを開きました。制作中ですが、仙台堀川公園の素晴らしいところ、計画の問題点、改善点などを関連資料を添えて紹介しています。ぜひ、ご覧ください。→ <http://www.senbori.com/xxops>

平成 28 年 10 月 7 日 「仙堀」整備計画について No.2 (仙台堀川公園を考える会)

No.04  
2016.12.23

# 「仙堀」整備計画について

「仙台堀川公園を考える会」江東区北部 6-27-14 E-mail: info@senbori.com

江東区は「仙台堀川公園整備計画」基本計画(案)の説明会を4月に開催、7月15日まで意見募集。その修正案を12月15日、砂町議員団に説明しましたが、根本的な修正はなく、区民非公開です。計画への反対・見直しの署名を区長に提出、1500名を超え継続中。

私たちは、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)に江東区と参加した生物多様性チーム江東をはじめ、ネイチャーリーダー、エコリーダー、江東区CIGサポーター会議など、これまで、そして現在も江東区の事業に関わり、より良い江東区を目指してご尽力・ご協力をいただいております。しかし、今回の整備計画はさまざまな面で課題が多いため、その改善を求めます。ぜひ、ご意見をください。

仙台堀川公園関係住民有志、生物多様性チーム江東、NPO法人ネイチャーリーダー江東、NPO法人アーツリー-自然学校、こうとうエコネットワーク、NPO法人Green Works

## 皆様のご意見を区にお伝えください

江東区のホームページに「区長への手紙等」があり、ネット上から意見を送るほか、駅などの「広報スタンプ」に用紙がおかれている場合もあります。ぜひ、皆さんのご意見を区にお伝えください。

### 計画の進め方の改善や未実施の調査が、修正案に反映されていません

計画の修正案は、12月15日に区から砂町議員団へ説明が行われました。しかし、区民には非公開で、12月29日区民3月まで、今回の資料は区民さんから頂きました。基本計画は、隣接町会に説明したとしていますが、区にも掲載されず、住民のほとんどが計画を知りませんでした。隣接地域では、ホームページ掲載、公園の看板などで、進め方の改善を求めましたが反映されず、利用状況、生きものなどの調査についても、修正案にその実施などが示されていません。

### 「区民の森」「親水」など、公園の価値についての見直しもなされていません

江東区はCITY IN THE GREEN(緑の中の都市)を推進し、「区民の森」をテーマに親水公園として整備された仙台堀川公園ですが、多くの樹木を切り、川を埋める計画は修正されていません。現水路の仙台堀川は、旧護岸も公園境界として活用していますが、実態として説明板がある「歌当」も壊し、新設とされ、地域や歴史への理解にも改善がみられません。修正案では、「雨水対策のために暗渠化せざるを得ない」との記述が加えられました。現在は流量が少なく、流量調整は可能ですが、暗渠化の根拠が不明確です。また、川を埋める代わりに工業用水(真水)の水路としていますが、仙台堀川は汽水で、現在生息しているハゼ等は生きられず、水鳥に配慮とありますが、現在の繁殖できる環境は失われたままの計画です。そのほか、絶滅危惧種の鷹・ツミをはじめ、多くのセミや他の生きもの、釣りについての改善案は示されていません。電線地下化に伴う地上施設設置に合わせた歩道確保が見直されていません。夜間、公園内の設置も可能であり、狭いから広がる道路に植栽帯を設け、公園を削り木を切る計画は、緑量の面からも整備・管理コストからも合理的ではありません。護岸の撤去・道路拡張による交通事故の危険は、「今後検討」とされ、改善されません。また、自転車走行帯が修正案で公園内に導入されましたが、現在の仙台堀川川上に幅3mの直線で設計された高速走行が懸念される車道で園路とはいえません。小名木川隣接区域は、歩行者・自転車ゾーン区分の取付道路をそのまま活用しており、他もこれに準じたゾーン区分で分です。

### 将来展望・社会動向の検討、技術面についても改善されていません

渋谷駅近くの「渋谷川」は来春、暗渠化されていた川が復活します。韓国・ソウル市の中心に流れる清溪川は40年高層道路下の暗渠化でしたが2005年に復活。現在は観光・憩いの場です。アメリカのポートランドやシカゴは既存の道路に緑地を新設し、ニューヨークでも旧軌道を公園化したハイラインが観光スポットとなるなど、環境配慮型の都市整備が国内外の潮流ですが、修正案は逆行しています。

### 新たな問題：施設の破損箇所が放置され、生きものが死んでいます

八ツ橋の池(ザリガニ池)やガマの池は、施設の破損でたびたび濁水し、護岸も壊れたままで、水生生物の多くが死んでいます。池ではザリガニ捕食し、池に棲む生きものへの問題ではありません。公園は、近隣の保育園・幼稚園・小学校も多く利用しており、特に八ツ橋の池は、遠方からわざわざ来る親子連れも多いです。破損箇所の写真は、見た目でなく、ケガなどの発生要因にもなるため、整備予定前であっても、適切な管理が求められます。

## 仙台整備計画修正案まとまる しかし 道路拡幅・公園削減、仙台堀川を埋め、多くの樹木伐採は変わらず…

計画途中、土壌汚染が見つかり、その対応で着工は平成30年度以降になりました。修正案では、公園幅削減8m→4mに抑えたとしていますが、自転車通行帯3mを公園内に導入したため、実質的には8m→7mと、道路拡幅・公園削減、仙台堀川を埋め、多くの樹木を伐採する基本計画(案)の根本的な修正は行われていません。

計画の進め方の改善や未実施の調査が、修正案に反映されていません

- 議員団に説明、区民非公開(12月2日) 隣接町会(2月)、区民説明会(3月)。公開はその後です。

### 「区民の森」「親水」など、公園の価値についての見直しもなされていません

- 「区民の森」として整備された公園ですが、修正案でも多くの樹木を伐採します。
- 仙台堀川(汽水)の暗渠化は修正されず、代わりにとされる水路は「工業用水(真水)」です。
- 修正案で公園に導入した自転車通行帯は、高速走行が懸念され、公園の園路とはいえません。
- 公園からの「飛び出し」が危惧される設計、不合理な道路の種裁も修正されていません。

### 将来展望・社会動向の検討、技術面についても改善されていません

- 環境配慮型の都市整備が国内外の潮流と提案しましたが、修正案に反映されず逆行しています。

### 新たな問題：施設の破損箇所が放置され、生きものが死んでいます

- 八ツ橋の池(ザリガニ池)は、濁水・護岸も壊れたままで、水生生物の多くが死に危険です。

「修正案」は、仙台堀川公園を考える会のホームページからダウンロードできます

平成 28 年 12 月 23 日 「仙堀」整備計画について No.4 (仙台堀川公園を考える会)

# 「仙堀」整備計画について

「仙台堀川公園を考える会」江東区北砂 6-27-14 E-mail:info@senbori.com 文責：矢野正地  
「仙台堀川公園整備計画」（修正案）説明会が3月20日に開催されました。参加した区民からは計画に対する問題点が多数指摘され、見直しや中止を求める意見がほとんど。計画の見直しを求める署名も2,500名を超えました。修正案の問題点を改めて検証しました。

私たちは、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）に江東区を参加した生物多様性チーム江東をはじめ、ネイチャーリーダー、エコリーダー、江東区CIGリーダー会議など、これまでも様々な事業に関わり、より良い江東区を目指してきた団体・個人が主体です。しかし、今回の整備計画は問題が多く、その改善を求めています。ぜひ、ご指摘とご意見を伺いします。（仙台堀川公園整備計画）生物多様性チーム江東、NPO法人ネイチャーリーダー会議、NPO法人グリーンワークス、NPO法人Green Works

## 仙台堀川公園整備計画（修正案）は公園の改悪です。もっと公園や地域を良くする方法があります。

### 区民憲章・CIGと真逆

区民憲章は「1. 緑と水に恵まれて ゆたかな心育てます」で、CITY IN THE GREEN（緑の中の都市）や環境基本計画などの諸施策と計画は真逆です。これまで区の施策に賛同、協働してきた区民が疑問を感じています。

### 川も歴史も消える

仙台堀川は埋められ（暗渠）、由来を承す船や堰当てとして利用している護岸も撤去されます。当初の公園整備では親水性と防火用水から川をあえて残しましたが、その経緯や地域の歴史への配慮がありません。

### 子どもから自然を奪う

30年以上をかけた豊かな緑と仙台堀川の汽水、真水の池で、絶滅危惧種の鷹・ツミやカルガモ、キツネも育つ公園ですが、こうした生きものが棲めなくなり、生きものの学習の場・遊びの場が奪われます。

### 世の中の動きに逆行

暗渠化した川を渋谷で復活させたり、高速道路を川に戻したり、道路を植栽帯にするなど、国内外の潮流は、環境配慮型の街づくりですが逆行しています。将来的には人口減少も想定され、長期的観点からも問題です。

### ひどすぎる計画・管理

日常利用や観水の考え方、お年寄りが行き来しにくい中央水路、既存施設や樹木の活用やコスト削減への考慮が感じられない計画です。現在、池は枯れ魚は全滅、施設も管理がずさんです。管理運営こそ課題です。

### 50億円もの税金です

当初事業費は40億円でしたが、土壌汚染対策など、調査・設計などを含めると、関連事業費は50億円を超えそうです。事故も起きている溝洲橋通り下に道路を設けるなど、もっと有効に活用できるはずです。

### 樹木の58%を伐採

区民の森として整備し、やっとなった公園ですが、4,919本の樹木は2,884本を伐採。残置は高木486本、うち180本は移植で高価な費用でリスクもあります。新植もされますが、緑陰は当然の薄くなります。

### 憩いの場がなくなる

修正案でも公園幅は7m減、約7,700㎡がなくなります。新たな水路と園路は公園の中央に配され、現在のレジャーシートが気軽に広げられ、緑陰のあるゆとりの空間がなくなり、散策や憩いがしにくくなります。

### 基本的な調査なし

保育園や幼稚園、小学校が公園を多用しています。計画地は仙堀の中でも、鳥の繁殖が多い場所です。しかし、利用や生きもの調査は行われず、区内でも緑地が少なく、生活道路であることなどの配慮もありません。

### 他で改善可能な安全

自転車と歩行者は、ゾーン分けでも対応可能。狭いから拡幅する道路に植栽帯は整備・管理費の面からも不現実で、電線地中化は他の方法があります。飛び出しやすくなる公園はむしろ危険。一方通行との声もあります。

「修正案」は、仙台堀川公園を考える会のホームページからダウンロードできます [仙台堀川公園を考える会](#)

# 「仙堀」整備計画について

「仙台堀川公園を考える会」江東区北砂 6-27-14 E-mail:info@senbori.com  
整備計画の見直しを求める署名は、現在4,000名に近づいています（詳細HP ぜひご協力）。また、公園や計画をもっと知るため、定期的な報告会を行います。今回はその第3回目です。

私たちは、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）に江東区を参加した生物多様性チーム江東をはじめ、ネイチャーリーダー、エコリーダー、江東区CIGサポーター会議など、これまでも様々な事業に関わり、より良い江東区を目指してきた団体・個人が主体としています。しかし、今回の整備計画はさまざまな面で問題が多いため、その改善を求めています。ぜひ、ご指摘とご意見を伺いします。

仙台堀川公園近隣住民市民会、生物多様性チーム江東、NPO法人ネイチャーリーダー会議、江東エコリーダーの会、NPO法人グリーンワークス、こうとうビオネットワーク、NPO法人Green Works

## 第3回 「仙台堀川公園を考える」報告会

今回のテーマ：仙台堀川公園整備計画の現状と課題について（予定）

9月23日（祝土） 14:00～16:00（13:45開場）  
亀高地区集会所 2階（江東区北砂 6-27-7、六杓小隣、亀高公園内）

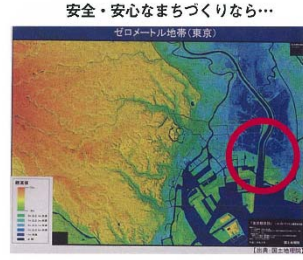
公園を良くするご意見も  
お聞かせください

課題・問題が多くあります  
現状？！

- ① 川を埋めまですカルガモも棲めません
- ② 樹木2,884本伐採（58%）
- ③ 公園・憩える空間減ります
- ④ 整備費は40億円
- ⑤ 交通事故が危惧される設計
- ⑥ 片側一直線の自転車専用路 などなど…

もっとステキな公園にできます  
見直し提案中！

- ① 川も水辺も豊かにホテルも雇める
- ② 樹木を活かして木陰は確保
- ③ より憩える ドッグランやランニング etc
- ④ 整備費は有効に溝洲橋通りの安全橋新
- ⑤ 電線地中化 公園を閉ざすに実施できます
- ⑥ 歩行者と自転車はゾーン分けで などなど…



今回の電線地中化対象地域は、一部が水没した「キティ台風」の被害、さらに地盤沈下した地域で、水害の危険は区役所で配布されている「ハザードマップ」の通りです。水没した場合、その水は汽水・塩水で電気を通します。さらに、地中化した電線の樹木は、阪神・淡路大震災で、断線の調査や修理に倍以上かかり、冠水・雷害などの災害時は配線・復旧などの作業ができません。また、架空地線（送電線）の存在がなくなるため、沿道の通行人や建築物への音響の危険性が増すなどのデメリットもあります。今回の整備計画では、高木が伐採され、火災の延焼防止も減少し、拡幅する道路、自転車専用路の危険も指摘されています。報告会では、整備計画に関する現状報告をはじめ、安全の観点からの話題提供、もっとステキな公園にする工夫などについて、お話し、集まった方々からのご意見をいただくと思います。

仙台堀川公園を考える会のホームページの充実を進めています [仙台堀川公園を考える会](#)

平成 29 年 6 月 8 日 「仙堀」整備計画について  
No.5（仙台堀川公園を考える会）

平成 29 年 9 月 10 日 「仙堀」整備計画について  
No.7（仙台堀川公園を考える会）

<署名へのご協力をお願い>

## 江東区「仙台堀川公園整備計画」について

仙台堀川や多くの樹木、公園の2割がなくなり、木陰や散歩・憩いの場が失われます。タカが暮らすほど豊かな子どもたちが生きもの（いのち）に触れる場もなくなります。

「仙台堀川公園整備計画」が江東区で進められています。開園から30年が過ぎ、当初目的の「区民の森」となり、地域に親しまれている公園ですが、整備計画は、公園面積を8割に減少し、現在ある樹木のほとんどを伐採するもので、突然の出来事に驚いています。

今回の計画の目的である「公園内の歩行者と自転車の錯綜」についての必要性は理解できますが、その課題解決は後述のとおり、歩行者と自転車のゾーン分けなど、他の方法でも実現できるもので、現在の計画ではあまりにも失われるものが多くなっています。

特に、大きく育った樹木もたまたま緑陰は公園利用者にとって過ごしやすき場を提供しており、近隣にこまやかなエビや小魚のいる池は、子どもたちの格好の遊び場、学習の場になっています。また、絶滅危惧種のタカ「ツミ」も営巣しており、整備によりこれらの環境が失われます。

このため、今回の計画を江東区に再考していただくための署名を行い、現在の環境を保全したいと考えております。

以下に、今回の整備の問題点や改善案などを整理しましたので、参考にしていただき、ご署名にご協力いただくと幸いです。何卒よろしくお願いいたします。

仙台堀川公園を考える会  
東京都江東区北砂6-27-14  
TEL:03-5635-9955 FAX:03-5635-9956  
E-Mail: info@senbori.com  
URL: http://www.senbori.com/xoops

## 「仙台堀川公園整備計画」に反対し、見直しを求める署名

魚やカモが暮む仙台堀川を地中化し、絶滅危惧種のタカが営巣する公園の樹木をほとんど伐採するなど、自然観察など子どもたちが学び・遊ぶ場所が消滅します。

江東区長 山崎孝明 殿

江東区の「仙台堀川公園整備計画」は、以下のような問題があるため、この計画に反対し、見直しを求めます。

- ・仙台堀川公園30年間の価値が失われます。
- ・子どもたちにとってかけがえのない空間が失われます。
- ・都市の中で育まれた生物多様性豊かな自然環境が失われます。
- ・道路拡幅で公園域が狭められ、自然環境の喪失、防火帯などの防災機能が損なわれます。
- ・自転車と歩行者、車輛の交通安全について、現在の計画より有効な計画があります。
- ・公園施設の老朽化に対しては、大規模工事ではなく適切な管理で対応すべきです。

氏名	住所

### ●仙台堀川公園30年間の価値について…現在の計画では下記ものが失われます。

仙台堀川公園は、開園から30年を経ており、地域住民及び子どもたちからこの地に育った方々のふるさと原風景になっています。

地域の方が憩う空間となり、夏の暑い時期には、大きく育った木々がほぼ全域に緑陰をつくり、涼しく散歩しやすく、ジョギングなどを楽しく人々も多くなります。

近隣の保育園、幼稚園、小学校では、長い年月で育まれた豊かな自然の中で、さまざまな種類の樹木があり、いろいろな種類の鳥がいるなど、自然観察や葉っぱを使った工作など、他の公園にはない仙台堀川公園ならではの活用がなされています。

壁当て広場は、かつての継ぎ足し護岸の歴史を示すプレートなども設置され、歴史的建造物を有効活用した好事例とも言え、地域の歴史資産のひとつになっています。あわせて、旧護岸は、子どもたちの飛び出し防止、落ち葉の飛散防止にも役立っており、園内への出入りを考えた場合、必要な箇所への解体で解決できます。

### ●子どもたちにとってかけがえのない空間が、現在の計画では失われます。

ハツ橋の池は、子どもたちの通称で「ザリガニ池」と呼ばれ、平日から多くの子どもたちが水辺に親しみ、週末には遠方からもたずね来る親子がいるほど、都会のなかで自然を感じ、生物・生命・いのちを学ぶことのできるかけがえのない場所になっています。まさに子どもたちの心と体を育み、また大人にとっても子どもと一緒に水辺自然に親しみつつ自身のいのちの思い出を呼び起こすことのできる素晴らしい親水空間です。

壁当て広場、お山すべり台、身体を隠すことのできる大きな木、落ち葉遊びができるほどの落葉、夏は照り返しが少なく、緑陰があり、さまざまな工夫して遊べるゆとりがある空間が、近隣の亀高公園や城東公園にない特徴となっています。

### ●都市の中で育まれた生物多様性豊かな自然環境が、現在の計画で失われます。

「区民の森」として、30年にわたる管理をしてきた結果、大きく育った木々により、初期の目的である「森」となり、この緑陰から、多くの鳥類が生息できる空間になっており、都の絶滅危惧種になっているタカ「ツミ」が営巣する東京都内でも希少な環境になっています。かつて、特定地域の剪定ですら、生息数の減少につながり、今回の多くの樹木の伐採では、種類、個体数ともに激減が見込まれます。

ガマの池、ハツ橋の池は真水の池ですが、今回の計画でなくなり、汽水もポンプアップによる最大水深30cmの水路となるため、淡水、汽水ともに魚類の生息は見込まず、この結果、サギやカワセミが飛来することはなくなり、水鳥の生息空間としても適さないことから、森と水の喪失により、多くの生きものがいなくなり、人々に親しまれていたカルガモの子育ても見られなくなります。

### ●道路拡幅で公園域が狭められ、そのため自然環境の低下、また災害時の防火帯や避難場所等の防災機能が損なわれます。

現在の計画では、車道に自転車走行空間と植栽帯を新たに設けるなど、片側4m、両側合わせて8mの道路拡幅を行い、公園内の園路も3mから4mに拡大され、その結果、公園域が大きく縮小されます。

薄く細った公園緑地では、工事後に現在のレベルの自然豊かな公園環境への回復は困難であり、緑地のもつ気候緩和等の環境調整機能が低下し、災害時には道路に車両が埋

め尽くされることや暗渠道路の崩落の危険性、さらに防火帯や避難所として、公園が有する防災機能の低下は明らかです。

### ●自転車と歩行者、車輛の交通安全について、現在の計画より有効な計画があります。

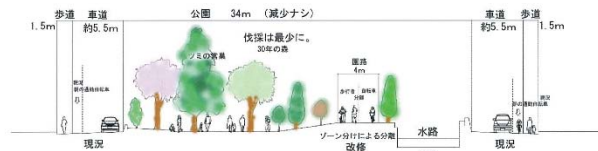
公園内の園路は、歩行者に気をつけた自転車の園路利用が可能で、公園を通過する場合に車道の自転車走行空間へ誘導するとしています。この結果、自転車は、車道片側自転車走行2列の両側4列と園路利用が可能になりますが、仙台堀川公園の他の場所や区内の他の緑道と同様に、歩行者と自転車のレーン区分で対応すれば、車道の拡幅は不要で延長1.1km、8,800㎡の公園面積や大きく育った樹木の多くを失うことなく課題の解決が可能になります。

緑陰不足から、植栽帯を設けるとしていますが、既存の公園を活かすことで、現在の豊かな緑を損なわずに済み、課題を解決するための税金の投入を大幅に削減し、区民の負担を減らすことができます。

また、車道を広げることは、車輛がこれまでよりスピードを出しやすい環境になり、新たに車輛を導くことにもつながります。さらに、お年寄りや子どもたちに対し、横断に伴う負担を強いることになります。

電線地の地中化は、景観の向上など、好ましい点も多々ありますが、地中化に伴う道路上に関連施設を設置せざるを得ず、これは子どもたちやかがむことが多くなっているお年寄りも高さがあり、これまでになかった死角を生むこととなります。

電柱倒伏による危険性も考えられますが、こうした危険性よりも、日常生活に潜む危険性に留意すべきと思われる。



### ●公園施設の老朽化に対しては、大規模工事ではなく適切な管理で対応すべきです。

老朽化し施設については、当然、適宜の更新が必要です。しかし、公園環境を一変させる大規模工事は、大きな区民のための予算が使われることはもちろん、長い時間で育まれた公園・緑地の環境を損なうことにもなります。現在の園路の樹木の根上り等による凹凸や池底への周辺土砂の堆積などは、土地環境の変化については適宜の管理作業として対応すべき事項です。

加えて、利用者や地域の方々と一緒に管理手法や今後の管理計画を見直すことで、一層豊かな公園環境とその快適な利用を育んでいくことができると考えています。

※「仙台堀川公園整備計画」の問題については、さまざまな意見・提案があり、現在整備中のホームページ <http://www.senbori.com/xoops>に、各種資料を集めています。ぜひ、ご覧ください。